令和３年度
第46回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール
入賞作品集

愛媛県農業協同組合中央会

第46回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール入賞作品　目次

1．　作文・図画愛媛県コンクールの概要 …… 1
2．　県知事賞　受賞者 …… 3
3．　【全国コンクール】県内受賞者 …… 4
4．　作文部門　入選作品集（敬称略）…… 5

【作文　第１部】（小学１～３年生）

金　賞	松山市立窪田小学校	２年	谷　真乃介
銀　賞	今治市立吹揚小学校	１年	武内志静
銅　賞	松山市立新玉小学校	３年	羽田凛太朗
優秀賞	四国中央市立中之庄小学校	３年	坂上杏里
〃	今治市立清水小学校	３年	越智琴菜
〃	今治市立常盤小学校	１年	青野陽向

【作文　第２部】（小学４～６年生）

金　賞	西条市立神拝小学校	６年	安藤寿恩
銀　賞	今治市立立花小学校	５年	池内昊斗
銅　賞	伊予市立伊予小学校	６年	楠本柊真
優秀賞	今治市立常盤小学校	６年	石丸侑花
〃	今治市立日高小学校	５年	秦　愛音
〃	大洲市立大洲小学校	５年	實藤稟

【作文　第３部】（中学１～３年生）

金　賞	松山市立椿中学校	１年	安倍由花子
銀　賞	宇和島市立城北中学校	３年	上甲華
銅　賞	八幡浜市立愛宕中学校	３年	米井想真
優秀賞	今治市立桜井中学校	３年	渡邊亜紀
〃	今治市立立花中学校	３年	榊原里菜
〃	宇和島市立津島中学校	１年	福本穂

５．　図画部門　入選作品集（敬称略）……25

【図画　第１部】（小学１～３年生）

金　賞	松山市立たちばな小学校	１年	俊野富ノ介（としの とみのすけ）
銀　賞	西予市立宇和町小学校	３年	松浦　花（まつうら はな）
銅　賞	松山市立桑原小学校	２年	奐部奏翔（うお べ かなと）
優秀賞	松山市立石井東小学校	１年	山田倫子（やま だ りんこ）
〃	松山市立久枝小学校	３年	松本澪佳（まつ もと れい か）
〃	伊予市立伊予小学校	１年	今井環那（いま い かん な）

【図画　第２部】（小学４～６年生）

金　賞	大洲市立久米小学校	６年	辻　野乃（つじ の の）
銀　賞	東温市立北吉井小学校	４年	福本沙恵（ふく もと さ え）
銅　賞	宇和島市立岩松小学校	６年	清水海里（し みず かい り）
優秀賞	西条市立小松小学校	５年	片野ひなた（かた の）
〃	西条市立多賀小学校	４年	田中彩琉（た なか さ りゅう）
〃	伊予市立伊予小学校	４年	武智和心（たけ ち わ こ）
〃	伊予市立伊予小学校	５年	伊藤海璃（い とう かい り）

【図画　第３部】（中学１～３年生）

金　賞	宇和島市立三間中学校	３年	西野可七実（にし の かなみ）
銀　賞	西条市立河北中学校	１年	田中洸成（た なか こう せい）
銅　賞	松山市立鴨川中学校	２年	藤村梨世（ふじ むら り せ）
優秀賞	四国中央市立土居中学校	３年	阪下綺咲（さか した き さ）
〃	大洲市立大洲北中学校	１年	清水心々咲（し みず こ こ さ）

第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画愛媛県コンクールの概要

１．県募集要領の作成

ＪＡグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知することを目的に、ＪＡ全中が実施する作文図画全国コンクールに対応するとともに、本県として作文・図画愛媛県コンクールに取り組むこととする。

このため、令和３年５月11日に、第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画愛媛県コンクール募集要領を作成し、取り組みを行ってきた。

２．後援団体の概要

後援はＪＡ全中において、内閣府／文部科学省／農林水産省／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会（ＮＨＫ）／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／（公社）全国学校図書館協議会／（公社）日本ＰＴＡ全国協議会／（公社）米穀安定供給確保支援機構に依頼し、ＪＡ愛媛中央会として、愛媛県／愛媛県教育委員会／愛媛県農協青壮年連盟／ＪＡえひめ女性組織協議会に依頼した。

３．応募状況

① 延べ団体数：	小学校	１０１校	②応募作品数：	作　文	1,２１３点
	中学校	３６校		図　画	1,０８４点
	合　計	１３７校		合　計	2,２９７点

４．審査概要

審査員は、作文部門３名、図画部門３名の計６名。作品募集の締め切りを令和３年９月30日とし、作文部門については９月14日～11月５日の約１カ月間、図画部門については10月19日に審査を実施した。

《審査方法》

○作文部門○

・第１～３部の各部を各審査員が受け持つ形で作品を審査し、それぞれの部から金賞、銀賞、銅賞各１点、及び優秀賞３点を選出した。
・その後、各部の金賞作品を審査員全員が審査し、１点を県知事賞とした。

○図画部門○

・応募数の多い第１、２部について、学年ごとに各審査員が10点程度選出した後に、審査員全員で部ごとに金賞、銀賞、銅賞各１点、及び優秀賞を３点選出した。
・第３部については、応募数が少なかったため、審査員全員で金賞、銀賞、銅賞各１点及び優秀賞２点を選出した。なお本年度は、３部の優秀賞を２部へ１点移した。
・その後、各部の金賞作品を審査員全員が審査し、１点を県知事賞とした。

《審査員》

部　　門		所　　属	役　　職	審査員氏名
作文	1部 （小学1～3年生）	松山市立荏原小学校	校　　長	茨木　里子
	2部 （小学4～6年生）	松山市立浅海小学校	校　　長	秋山　徹也
	3部 （中学1～3年生）	愛媛県教育委員会 義務教育課	指導主事	福垣内あゆみ
図画　1部（小学1～3年生） 2部（小学4～6年生） 3部（中学1～3年生）		松前町立北伊予中学校	校　　長	福島　泰正
		松山市立石井東小学校	校　　長	稲田　哲也
		宇和島市立岩松小学校	教　　頭	二宮　茂樹

《審査結果》

別紙参照

5．表彰式の概要

「ＪＡ愛媛食農教育フェスタ2022」

○日　時：令和４年１月５日（水）10時30分～

○場　所：ＪＡ愛媛　８階　クリスタルホール

○参加者：受賞者及び保護者、学校関係者、関係団体、約60名

第46回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール 県知事賞 受賞者

作　文　部　門　　第２部　（小学４～６年生）

西条市立神拝小学校

６年　　安藤寿恩（あんどうひさき）

「がんばれ、負けるな！僕のお米たち」

図　画　部　門　　第３部　（中学１～３年生）

宇和島市立三間中学校

３年　　西野可七実（にしのかなみ）

「黄金色に輝く稲穂」

【全国版】第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 県内受賞者

（令和３年12月６日発表）

農林水産大臣賞　図画部門　第３部　（中学１～３年生）

西条市立河北中学校

１年　田中洸成（たなかこうせい）

「努力の賜物」

優秀賞　作文部門　第１部　（小学１～３年生）

松山市立新玉小学校

３年　羽田凛太朗（はねだりんたろう）

「おじいちゃんのほかほかごはん」

優秀賞　作文部門　第２部　（小学４～６年生）

西条市立神拝小学校

６年　安藤寿恩（あんどうひさき）

「がんばれ、負けるな！僕のお米たち」

優秀賞　作文部門　第３部　（中学１～３年生）

松山市立椿中学校

１年　安倍由花子（あべゆかこ）

「古米のたこ飯」

優秀賞　図画部門　第１部　（小学１～３年生）

西予市立宇和町小学校

３年　松浦花（まつうらはな）

「おにぎり作り」

優秀賞　図画部門　第２部　（小学４～６年生）

宇和島市立岩松小学校

６年　清水海里（しみずかいり）

「ぼくの稲かり体験」

第46回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール

作文部門作品

金賞作品

おこめのおかげで

松山市立窪田小学校　二年
谷（たに）　真乃介（しんのすけ）

ぼくのとりえは、元気です。元気があるのは、毎日たくさんごはんをたべているからです。かぞくとたべるほっかほかのあさごはん。遠足の時のしおおにぎり。少し調子がわるいときの玉子がゆ。妹とけんかしていつもよりしょっぱいおむすび。みんなでたべる給食の白ごはん。楽しいときもかなしいことがあったときもぼくはいつもごはんをたべてパワーをたくわえています。

「しんちゃん、おはよう。」

ぼくの家のまわりには、いっぱい田んぼがあります。学校に行くとき、知りあいののうかの人が声をかけてくれます。ぼくも、

「おはよう。」

と、にっこり返します。雨の日もあつい日もいつも田んぼではたらいて米をそだてているので、すごいし、田んぼのおじちゃんおばちゃんはつよくてかっこいいです。きっと、まい日たくさんごはんをたべているからつよくて元気なんだろうな。まい日、のうかの人をみていると、ぼくの大好きなほっかほかのごはんがたべられるようになるためには、いろいろな人のくろうやど力、思いがつまっていることに気づきます。

ぼくは、れきしにきょうみがあって、昔の生かつのＤＶＤを見たことがあります。そこには、米はなく貝づかがありました。貝や木のみをたくさんたべていたそうです。昔の人、ぼくのずっとずっと前のじいじばあばにも、こんなにおいしいぼくの大すきなほっかほかのごはんをたべさせてあげたかったです。

お米には、えいようがたくさんあると先生におしえてもらいました。なので、ぼくはいっぱいごはんをたべて、かしこくなろうと思います。がんばってべん強して、りっぱな大人になろう。“みのるほど　こうべをたれる　いなほかな”お米をみならってがんばるぞ、えいえいオー！！

銀賞作品

おこめのようせい

今治市立吹揚小学校　一年
武内志静（たけうちしせい）

くんくん。くんくん。あ、わたし、よばれてる。ふわあっとあまあいにおいがおへやのなかにひろがって、

「もうすぐできるよ。」

ってわたしをよぶこえがする。そのこえは、すいはんきのなかからきこえてくる。

「ふわふわ、もちもちだよ。はやくはやく、わたしたちをむかえにきて。」

わたしは、このこえが、大すき。そして、おかあさんがすいはんきのふたをあけるとき、まほうのけむりが、もくもくもくもくっとでる。そのけむりのなかにかおをつっこむと、ピンピカピンにひかるおこめのようせいが、わたしをみてわらってる。だから、わたしは、「こんばんは。」ってあいさつするよ。

おかあさんがおちゃわんについでくれた、おこめのようせいたち。いただきますのあいさつまで、にらめっこ。がまんしていても、ついついわらってしまうよ。だって、おいしいことをかんがえちゃうからだよ。

おさしみとも、うめぼしとも、とろろこんぶとも、きなことも、ちりめんじゃことも、みんなみんななかよしなおこめは、きっと、やさしいようせいなんだね。たまごやきだって、からあげだって、おみそしるだって、かぼちゃのにものだって、おこめがいっしょだと、もっとおいしくなるんだよ。もしも、たべもののオリンピックがあったら、きんメダルはおこめのようせいにきまりだね。

きょうも、一つぶものこさずじょうずにたべるよ。ようせいさん、いただきます。

銅賞作品

おじいちゃんのほかほかごはん

松山市立新玉小学校　三年
羽田　凛太朗（はねだ　りんたろう）

ぼくは、ごはんが大すきです。まっ白でたきたてのほかほかごはんを、すきやきやおさしみといっしょに口いっぱいにほおばります。かめばかむほどあまくなり、しあわせな気もちになります。ぼくのおじいちゃんは、秋田県でお米を作っています。生まれた時から、おじいちゃんのお米で育ったぼくの体は背が高く、けんこうです。

しかし、この何十年で日本人のお米の消ひ量がへり、米ばなれがすすんでいるそうです。原いんは、パンやめんるいの方が、いそがしい人には手軽に食べられると、考えている人が多いからです。

そこでぼくは、日本のお米の消ひ量をふやすために、三つのことを考えました。まず一つ目として、パンやパスタなど外国がそのおいしさを教えてくれたように、今度は、日本のお米のおいしさを、外国に教えてあげることです。お米を主食としない国に行って試食会を開くと、こう果てきです。二つ目は、いそがしい日本人に、どんぶり一杯でいろんなえいようがとれて、かんたんに作れるメニューを考え、広めることです。おすしや牛どんを日本人は大好きなのだから、それにたようなメニューを発明したらこう果てきだと思います。三つ目として、お米のテーマソングを考えて、テレビやスーパーなどでながすと、こう果てきだと思います。お米の曲を聞くと、お米のことが耳にのこり、食べたくなると思います。

何年もコロナウイルスのせいで秋田県のおじいちゃんに会っていません。けれど、毎日、おじいちゃんの作ったお米を食べると、おじいちゃんのわらっている顔がうかびます。ぼくは、生産者さんが心をこめて作ったお米をみんなにも食べてもらいたいです。ぼくも今、がんばっているバスケットで活躍できるように、もっともっとお米を食べたいです。

優秀賞作品

おいしいって、大へんでやさしい

四国中央市立中之庄小学校　三年
坂上杏里

わたしのひいおじいちゃんは、言います。「じいじが生きとるうちは、家族のためにおいしいお米がんばって作るけん。あんちゃんは、いっぱい食べてくれよ。」

おじいちゃんは、今年八十九さいです。今年も家族のために、お米作りのまっさい中です。いつもとちがうのは、わたしもいっしょに田んぼのお手つだいをしていることです。

毎年そばで見ていたから、「杏里もできる。」と思っていたけれど、石ひろいや水の道作り、水路の草引き、土にひりょうをあげたり…。「お米作りって、いねをうえるだけじゃないん！」と言ってしまうぐらい、たくさんの時間をかけて、おじいちゃんは田んぼをていねいに、一生けんめい作っていました。田うえも、見るのとやるのは大ちがいです。ドロドロの田んぼの中は、足がしずんで動けないし、しりもちなんて、何回ついたか数え切れません。おじいちゃんって、すごいな。お米作りが、こんなに大へんだなんて知りませんでした。

でも、おじいちゃんは、「大へん」だと思ったことはないそうです。

「作物をそだてる時は、食べる人がよろこんでくれるのを楽しみにそだてるんよ。じいじは、みんながおいしい言うて食べてくれるのが一番で、大へんやか思ったことないな。」と、ニコニコしながら話してくれました。

おじいちゃんのお米は、みんなにおいしいお米を食べさせたいという、やさしい気持ちも入っているから、おいしいごはんになるんだなあと思いました。

秋のいねかりまでは、まだまだいねのお世話がひつようです。わたしもおじいちゃんみたいに、やさしい気持ちもこめて、おいしいお米になるように、お手つだいをがんばりたいです。おじいちゃん、いつもありがとう。

優秀賞作品

食品ロスをなくそう

今治市立清水小学校　三年
越智琴菜（おちことな）

わたしのりょう親は、野さいやお米を作る仕事をしています。うちの野さいやお米は、すごくおいしいです。なのに今、問だいになっている食品ロスという言葉をきいて、かなしくなったので調べてみました。日本では、毎日一人お茶わん一ぱい分一年にすると四十八キログラムの食べ物がすてられているそうです。日本全国だと年間六百二十万トンもすてられているそうです。まだ食べられる物もすてられているのはもったいないです。今、新がたコロナウイルスのえいきょうでいん食店が時間をみじかくしないといけないので食べ物が売れなかったり、せっかく作ったのにすてないといけなくなっているとテレビで見ました。たとえばおにぎりを作るのにのう家の人がお米を作る、りょうしさんがのりや魚をとる、そのしょくざいをかこうする人がいる、それを売る人がいる。おにぎりを買うのにたくさんの人がはたらいています。なのにあまったらかんたんにすてられるのはかなしいです。学校でもきゅう食をのこすことは、同じだとおもいます。わたしは、きゅうしょくは毎回全ぶのこさず食べます。でもにがてなメニューがある時はたくさんのこっているのを見ます。じもとの野さいやお米できゅう食を作ってくれているので、わたしの両親の作ったお米や野さいがすてられていると思うと、なみだがでそうです。わたしは、両親の仕事を手つだうのもすきです。うちの野さいがたくさんうれるとうれしいです。みんなのこさず食べてロスがなくなってくれたらうれしいです。

優秀賞作品

パンがすきだったぼく

今治市立常盤小学校　一年
青野陽向（あおのひゅうが）

ぼくは、お米よりパンのほうがすきだ。だからあさごはんは、いつもパンばっかりたべていた。

いつもどおりパンをたべてがっこうにいってじゅぎょうをうけていたら、だんだんからだがしんどくなってきた。ちからがはいらなくなってすこしやすんだ。

いえにかえっておかあさんとびょういんにいってけんさをすることになった。けんさをしてみると「とう」がすこしたりなくて、「ケトンせいていけっとうしょう」というむずかしいなまえをいわれた。ぼくは、わからないから、せんせいと、おかあさんをみていた。二人ともしんけんにおはなししていた。おはなしのなかにあさごはんについてでてきた。おかあさんが、

「あさは、パンをたべていっています。」

というと、せんせいが

「パンよりお米をたべさせてください。カロリーもとうぶんもお米のほうがちからになる。」とかなんとか、ぼくにはわからないことをいっていた。

びょういんがおわっておかあさんがくるまのなかで、

「やっぱりあさは、パンよりお米のほうがいいみたいよ、からだのこともあるしあさは、お米ちゅうしんでたべてみよう。」

ぼくは、うなずいた。

つぎの日のあさ、おばあちゃんのいえであさごはんをたべた。おにぎりとおみそしる、お米につけるのりもあった。いつもどおりたべてがっこうにいった。あさお米をたべたからか、がっこうにつくまでのみちのりも、がっこうにいってからも、ぜんぜんしんどくなくて、パンをたべていっていたより、ちからがいっぱいでるしげんきよくあいさつもできた。

それからずっとあさごはんは、お米をたべている。よるもお米をのこしたりすることがあったけど、いまはのこさずぜんぶきれいにたべるようにした。

お米は、ちからのみなもと、げんきのみなもと。ぼくは、このたいけんからお米がだいすきになった。ぼくはとくに、なっとうかけごはんがおきにいり。

金賞作品・県知事賞

がんばれ、負けるな！僕のお米たち

西条市立神拝小学校　六年
安藤寿恩（あんどうひさき）

「まいったなぁ……。」

そう言いながら、今日の朝も窓を開けて空を確認している僕の父さん。これで何回目だろうか。毎日何回も同じことをしている。テレビや携帯電話の天気予報を何度も何度も確認して、その度にため息ばかりついている。夏休み終了のカウントダウンが始まり、ただでさえ落ち込みそうな気分が父さんのせいでますます落ち込んでしまいそうだ。

今日は八月二十一日。父さんが頭をかかえているのは十日以上も降り続く雨のせいだ。去年までの今日ぐらいは、父さんも母さんも忙しくて家の中になんか居るはずもない。八月に二人が家に居るなんて、ただごとではない感じが聞かなくてもわかってしまう。八月八日に台風が来てから、ほぼ毎日雨が降っている。台風の後は田んぼが早く乾くように、水を切らなくてはならない。一緒に行った僕は目を疑った。緑色だった稲が実をつけて、うすい黄緑色に変わっていた稲が全部たおれていたのだ。一直線にたおれていたり、うずをまいていたりした。心配になった僕は「これって大丈夫なん？」と聞いた。すると父さんは「大丈夫。たおれても刈れるんよ。」と、自信ありそうに笑っていた。

自信満々の父さんが、お盆を過ぎた辺りから元気がなくなっていった。わけを聞くと、たおれていても稲は刈れるけれど、田んぼが乾いていないと収穫するコンバインが埋まったり、つまったりするのだそうだ。早く晴れてほしいと僕も思った。

今日の夕ご飯は僕の好きな唐揚げだった。食べていたら母さんが「今年は九州や東北でも雨で大変。」と言った。兄さんも「川がはんらんしたりして大変だ。」と言った。家が水でつかったりした地域の田んぼは大丈夫だろうかと心配になった。そして自分の茶わんの中のご飯を見て、大変な思いをして作ってくれているのだなと実感した。ふだん気にしていなかった茶わんの端の米粒も残さず食べた。

僕の家は農家だ。働かざる者食うべからずを地で行く家なので、当然僕も兄さんも戦力である。今たおれている稲の田んぼの四すみは、全部僕たちがクワで掘り起こした。春休みやゴールデンウィークは田植えで忙しい。機械で植えられない所は僕たちの手で植えていく。そうやって苦労して植えた稲たちが、全部たおれてしまったのだ。

本当なら稲刈りが始まる十二日、僕と母さんは長ぐつと合羽を着て家を出た。たおれてしまった稲を少しでも起こすために。四株ずつ支え合うように形を整えていく果てしない作業だった。全部は出来なかったが、起こしてやった稲たちは何だか喜んでいるように見えた。そして昨日行ってみると、雨にも負けず、お互いを支え合って立っていた。「がんばれ、負けるな！僕のお米たち」こぶしに力を入れ心の中で何度も何度もエールを送った。

銀賞作品

応えんしてくれてありがとう

今治市立立花小学校　五年
池内昊斗（いけうち そらと）

ぼくの体の五割以上は、お米からの栄養で作られていると思う。それぐらい、ぼくは毎日お米を食べている。

ぼくは、野球をしている。土日の野球部の練習は、朝から夕方までである。ぼくたちのチームは、昼のお弁当の時間以外の十時と十五時に、ほ食タイムがある。それは、おにぎりを食べる時間だ。ほ食タイムがある理由は、体を大きくしてパワーをつけるためだ。ボールを遠くに打つ力、ボールを速いスピードで投げる力をつけるため。練習でクタクタになったとき、おにぎりを食べると、また体が元気になる。おにぎりの力ってすごい。

母が、鮭や梅干し、豚肉などいろんな具を入れて作ってくれるおにぎり。いつもはおいしいおにぎりだけど、夏の日に食べるおにぎりは、暑すぎてちょっと食べにくいときもある。けれど、きびしい練習にたえられる体を作りたいからがんばって食べる。テレビであこがれのプロ野球選手たちが大もりのお米を食べているのを見た。ホームランを打つ力を生み出しているのは、毎日の練習とお米の力なのかもしれない。

いつも当たり前に食べているお米だけど、このお米は、とても手間をかけて作られたものだ。

ぼくは、学校の総合的な学習の時間で、米作りについて学習している。五年生になって初めて田植えをした。苗はきれいな緑色だった。農家の人に、田植えのこつを教えてもらった。苗は、土に垂直に植える。植えるたびに一歩ずつ後ろに下がり、足のうらで土をならす。それを何度もくり返しながら、まっすぐ植えていく。むずかしかった。ぼくの家の近くにも田んぼはたくさんあるけれど、農家の人は、田んぼの中に水を出し入れしたり、鳥や虫から苗を守ったりと、いねかりまでにもたくさんの苦労がある。ぼくは、おいしいお米を作ってくださる方に感しゃの気持ちでいっぱいだ。

ぼくのひいおじいちゃんも、広い田んぼでお米を作っていた。もうひいおじいちゃんは亡くなってしまったけれど、その田んぼで近所の人がお米を作り続けてくれている。お米をもらうと、ぼくは父と弟といっしょに、精米に行く。三十キログラムのお米を精米機の中に入れる。五才の弟は、お米がどんどん機械に吸い込まれている様子がおもしろいようで楽しそうにじっと見ている。

ひいおじいちゃんが大切にしてきた田んぼで手間ひまかけて作られたお米。そのお米で母がにぎってくれたおにぎり。一つぶ一つぶのお米に、作ってくれた人の思いがつまっているように感じる。ぼくは、それを食べてプロ野球選手を目指している。

お米は、ぼくに、がんばる力をくれる。ぼくの夢を応えんしてくれるお米。いつもありがとう。これからも、よろしく！

銅賞作品

ご飯お米と私

伊予市立伊予小学校　六年
楠本柊真（くすもとしゅうま）

僕の家ではごはん粒を残すとすごくしかられます。それは多分僕の家が農家だからだと思います。

五歳のころに祖父と一緒に田植え機に乗っている写真があります。今はその時の記憶はうっすらしかありませんが、写真の中の幼い僕と今より少し若い祖父はとてもうれしそうな顔をしています。

昔の米作りについて農業をしている祖父に聞いてみました。すると曾祖父の時代は畑を耕す時に牛を使っていたそうです。そして百箱以上の苗箱に土を入れ、種もみを手でまき、土をかぶせて水をかけると、苗箱はすごく重くなり時間のかかる作業だったと聞きました。また苗を植える時は裸足で田んぼに入り、中腰になって何往復も植えていきます。

僕も五年生の夏に、田植え体験をしましたが、たった二時間やるだけで暑くて全身疲れてしまいました。昔の人は機械なしで数日かけて苗を植えて、秋も中腰で実った稲をカマで刈っていく大変な作業だと思います。祖父の時代からは、田植え機や稲かり機など便利な機械を使って作業をしますが、それでも人手が必要だと祖父は言い、種まき、田植え、稲かりは、祖母と父も手伝い数日かけて作業をしています。僕も三年生から手伝っていることがあります。底に小さな穴の開いたプラスチックの苗箱に土や種を入れる前に、育った時に根がはりすぎないように紙をいれていくことです。ですが、父や祖父が僕の年齢ぐらいには苗箱や肥料も運んでいたそうです。

この作文を書くことになって、なぜご飯粒を残すとしかられるのか父に聞いてみました。曾祖父の時代は戦争で食料が乏しく苦しかったそうです。父は当時の苦労を曾祖父から何度も聞かされていました。曾祖父は僕が一歳の頃に亡くなりましたが、体が動かなくなり満足に農業ができなくなっても、種まきや田植えの時に様子を見に来ては落ちた種もみを一粒一粒拾って残った苗は手植えしていたそうです。その姿を見続けた父は感動したと言っていました。それで僕たちに、食べ物を粗末にするな、米粒を残すなと言うのかと少し納得しました。

今祖父は腰が曲がってきています。最近重たい物を運ぶのは父がしている気がします。僕も大人になると今の父のように重い物を運べると思うので、父の腰が曲がったら代わりに重い物を運んであげたいです。昔は牛を使って農業をしていたのに、機械を使うようになって、今はドローンなどを使って、人の力を使わず農薬や肥料をまいたりして農業は変わってきていると父は言っていました。

将来父と僕が農業をすることになって、僕と僕の子供が農業をすることになる、もっと将来はどんな農業なのかな。そんな将来の話よりも今は祖父が作った炊き立ての白いごはんが大好きです。

優秀賞作品

わたしのごはんの研究

今治市立常盤小学校　六年
石丸侑花（いしまるゆうか）

わたしはお米が大好きです。いつも炊飯器で炊いているので、ふっくらとしたおいしいごはんが出来上がります。家族で食事の時に、

「ふっくらでおいしいね。」

と言うと、父が、

「おいしいね。炊飯器だと失敗がないからね。飯ごうで炊くと、こげることがあるので、大変だけど、おこげもけっこういけるよ。」

と言いました。わたしはこげているものがおいしいということを不思議に思いました。そして、飯ごう炊さんに挑戦して、確かめたくなりました。

実験のために、まず飯ごうが必要です。飯ごうは近くの店には売っていなかったので、ネットで取り寄せることになりました。次の問題は、場所です。自宅では、スペースがありません。そこで、夏休みに祖母の家の畑ですることになりました。

私の計画に家族みんなを巻き込んで、飯ごう炊さんでおこげ試食プロジェクトを開始しました。まず、かまど作りです。大きな石を集めてきて、三方を囲みます。父と祖父に手伝ってもらいました。

大問題だったのが、この後です。集めてきた木切れを入れて、火をつけたのですが、なかなか勢いよく燃えないのです。どんどんつぎこんだのですが、すぐに火が消えてしまいます。木と木の間に空気の通り道がなくて、上手に燃え続けなかったのです。やっとの思いで炊けたのは、一時間後でした。

水分がなくなってからも炊き続けて、こげたごはんが出来上がりました。茶色くなっていて固まっていました。見た目はおいしくなさそうでしたが、食べてみるといつものつやつやのごはんとは違ったよさがありました。

私は、おこげの食べ方にはどんなものがあるのかをネットで調べてみることにしました。焼きおにぎり、あんかけなど、たくさんの種類がありました。

こげるというのは、ふつうよくないことです。でも、そこから出てきた特徴を生かして新しいことにつなげていてすごいと思いました。

お米が日本に伝わってきたのは、弥生時代だと社会の歴史学習で学びました。お米は貯ぞうできるので、人々は定住できるようになりました。今の日本の発展はお米のおかげです。そんな大切なお米、ごはんのことで、まだまだ知らないことがたくさんありそうです。二千年以上も前から日本の人たちは、ごはんの食べ方についていろいろと試してきたのでしょう。わたしは、お米・ごはんについて、これからも研究を続けていきたいと思います。お米の消費量が減ってきているという問題を聞いたことがあります。お米・ごはんのよさをみんなで再認識して、これからも日本の食事の中心であり続けるように応援していきたいと思います。

優秀賞作品

大好きなお米

今治市立日高小学校　五年
秦（はた）　愛音（まなみ）

私はお米が好きです。朝食はだいたいご飯を食べます。いろいろな種類のふりかけを、たきたてのご飯にかけて食べるのが好きです。

私の母は秋田で生まれ育ちました。毎年夏になると車で秋田に遊びに行きます。その時「あきたこまち」のご飯を食べるのを楽しみにしています。祖母は必ず鮭入りのおにぎりをにぎってくれます。祖父母の家の近所に住んでいる人が、私たち家族が帰ってくることを知るとお赤飯を作ってくれ、それがとてもおいしくて、私は好きになりました。ちなみに鮭のおにぎりのことを秋田では、「ぼだっこのおにぎり」というそうです。「ぼだっこ」とは秋田の方言で「塩からい鮭」の意味で、塩鮭の色がぼたん色をしているからという説もあるそうです。秋田から愛媛に帰る時も、「道中が長いから」と言って、ぼだっこのおにぎりを二十個くらい持たせてくれます。もちろん、あっという間になくなってしまいます。コロナウイルスの感染拡大がなかなかおさまらず、去年も今年も秋田へは行けませんでしたが、来年こそは秋田へ行って祖母のにぎった「ぼだっこのおにぎり」を、おなかいっぱい食べたいです。

一年のうちで何度かおべんとうを持っていく時がありますが、母はおにぎりやチャーハンなど、その時々に合わせ、工夫して作ってくれます。おにぎりには、やっぱり鮭が入っていることが多いけれど、色どりや栄養も考えて、おにぎりの具を変えてくれたり、ふりかけをかけてくれたり、まぜごはんにしてくれます。

私は、たまに自分でチャーハンを作ります。卵とウインナーを切ったものをまぜて、最後におしょうゆをかけていためます。朝から作る時もあり、兄や妹は「おいしい、おいしい」と言って食べてくれます。自分で作ったものがみんなに喜ばれるのは、とてもうれしいです。

少し前に「お米には、神様が七人いる」と聞いたような気がして、気になったので調べてみました。水、土、風、虫、雲、太陽、そして作る人の七つの意味があるそうです。米を育てる米作りにはこの七つの神様のひとつでも欠けると、お米はできないそうです。チャーハンを作る時は、なんとなく食べていたり、フライパンのまわりにたくさんこぼしたりしていましたが、これからはお米の神様のことを思って一つぶ一つぶ大切に、感謝の気持ちを持って、おいしくいただきたいと思います。

優秀賞作品

いただきますに感しゃをこめて

大洲市立大洲小学校　五年
實藤（さねとう）　稟（りん）

「お米」は日本人の私たちにとってなくてはならない食べ物です。

でも、私は一番好きな食べ物は？と聞かれお米と答えたことはないし、当たり前に毎日食たくに出てきて、それを食べているだけで「お米」について深く考えたことは正直ありませんでした。

ある時から、どうして私たちは毎日お米を食べるんだろう？とそんなぎ問をもつようになりました。私はすき焼きが大好きなのですがすき焼きの時は必ずご飯をおかわりします。でも、もしすき焼きだけ出された時のことを考えると少しいやだなと思ったのです。そこで私はすき焼きをひき立たせてくれていたのは実はご飯だったのだと気付きました。今までメインのおかずにばかり目がいっていたのですが、わき役的そん在のご飯は私の大好きな食べ物の横にいつもあったのです。

また、逆に自分の好きな食べ物でも毎日食べようとするとあきてしまうと思います。でも、ご飯は毎日食べているのにあきないし、私にとってなくてはならない食べ物がご飯だったことに自分でもおどろきました。

ご飯がみんなに愛される理由がなんだか分かったように思います。

私が小さかったころ、食わずぎらいであまり色々な物は食べなかったそうです。ゆい一たくさん食べていたのが白いご飯だと聞きました。それを聞いた時は、白いご飯だけを好んで食べていたなんて今では考えられないなと思っていました。でも、本当は私にとってご飯は昔も今もなくてはならないものだったのです。

私の弟は、まだ小さいのにたくさん食べます。私よりご飯も大もりの量を本当にいつもおいしそうに食べます。そして、食べ終わると手を合わせて「ごちそうさまでした。」と大きな声で言います。私はいつの間にか、「いただきます。」や「ごちそうさまでした。」の言葉をたまにしか言わなくなっていました。

今まで何となく言っていた「いただきます。」「ごちそうさまでした。」と言う言葉…。

この言葉が大切な言葉ということに弟のおかげで気付けたように今は思います。

私の祖父はお米を作っています。お米作りは身近で見ていて、一年中お世話をしないといけないのでとても大変です。こうして一生けん命作っている人たちのおかげで私たちはおいしいお米が毎日食べられるのです。

だから、日々「今日もありがとう」と感しゃの意味もこめて「いただきます。」や「ごちそうさま。」を言おうと改めて思いました。

なにげなく食べていたご飯が私たちにとってとても大切な食べ物だったことが分かり、前よりお米が大好きになりました。これからもおいしいお米を家族で感しゃして食べていこうと思います。

「お米」今までありがとう。そしてこれからもよろしくね。

金賞作品

古米のたこ飯

松山市立椿中学校　一年
安倍　由花子（あべ　ゆかこ）

「あなたの好物は何ですか。」
と聞かれると、私は迷わずに、
「たこ飯」
と答えます。たこ飯とはたこと米を釜に入れて炊き込んだ松山の郷土料理の一つです。たこの風味がしっかりとご飯の中にしみ込み甘みがあります。勉強やスポーツを頑張った時のごほうびとして、たこ飯を食べることが私の習慣です。

松山市は瀬戸内海に面していて昔から漁業が盛んです。たこ飯は漁船上の漁業者が釣り上げたたこを船上でぶつ切りにして、お米に炊き込んだことがきっかけで市民にも広まりました。今でも伊予灘に面した漁港の今津地区には「たこ飯屋」と看板を出し、たこ飯をふるまう専門店が多く残っています。特にたこが旬の夏場は海水浴や釣りの後にたこ飯屋に立ち寄る住民や観光客で賑わっています。

祖母は松山港の沖合い十キロメートルに位置する離島中島町の出身です。子供の頃から海でたこが引き上がると、一家でたこ飯を食べていたそうです。そんな祖母が作るたこ飯はご飯がとても甘くて美味しいので、私はいつもお代わりを催促しています。

「ご飯に甘みがあるのはきっと新米を使って炊いているんだよね。」
美味しさの理由は新米を使って炊くことで、たこの味がしみ込んでご飯が甘くなっているのだろうと思っていました。しかし祖母は、
「このたこ飯は去年余った古米を使って炊いたんだよ。」
と言いました。予想外の言葉に私は目を丸くしました。「古米」は古い米で、固くて美味しくないという印象を持っていたので、祖母のふるまうたこ飯が古米から作られていたことにとても驚きました。

そこで私は祖母にどうすれば古米を美味しく炊くことができるのかを聞いてみました。祖母は、古米をといだ後で水を吸わせる浸水時間を、大切にしているそうです。お米を水に浸すことで、でんぷんが分解され糖が出てきます。ご飯に甘みを引き出すために夏場は三十分、冬場は一時間と、気温によって浸水時間を決めて炊いているそうです。古米は水分を失っているため、祖母は浸水時間を長めにして新米と同じ様な美味しさを引き出していました。

さらに驚いたことには、祖母は古米をペットボトルの中に入れて冷蔵庫で大切に保管をしていたのです。あるスーパーでは、袋入りの米は精米して一カ月経ったものは商品棚から撤去して廃きし、新米が入ると同時に古米は廃きしているという記事を読んだことがあります。

「米を捨てるなんてもったいない。」
生産者が思いを込めて作った米がプライドやイメージを理由に捨てられていることに残念な思いで一杯です。
「古米だからといって処分しないよ。手を加えることで甘いご飯になるからね。」
祖母が古米を大切に保管し、工夫しながらたこ飯を作る姿を見て、古米は保存方法や調理方法に手を加えることで、新米以上の美味しさが楽しめることに気付かされました。

日本全体で古米や味の落ちた米が捨てられるというフードロスが増えていて、問題になっています。祖母の「古米のたこ飯」づくりのように私たちが家庭でできることを実践していくことで米のフードロスは減らしていけると思います。私もぜひ祖母の「古米のたこ飯」の味を受け継いで、古米の廃き削減に取り組んでいきたいと思います。

銀賞作品

家族とお米

宇和島市立城北中学校　三年
上甲（じょう こう）　華（はる）

私の家は米作りをしている農家です。お米を作るサイクルに沿って小さいころから生活しています。改めてお米について考えてみると、家族のことが浮かんできて、少し照れ臭いです。しかし、この機会に私の育った環境には欠かせないお米と向き合ってみることにしました。

我が家の米作りの中心は父です。それを支えるのは、母と私たち兄妹四人です。お米の始まりは四月。家族でもみまきをします。それぞれに役割があります。機械を使っての流れ作業に手を止める暇はなく、長時間にわたるもみまきは、本当にしんどいです。我慢との戦いです。そんなときに活躍するのは、弟です。弟はミュージック担当です。みんなが元気になるように歌を歌ってくれます。自然と笑みがこぼれます。

五月田植え。ハウスに苗が広がります。もみまきを頑張った分、広がる緑のじゅうたんを見ることが大好きです。ここからがまた私たちの出番です。水田に苗を植えていきます。田植え機、軽トラックが出動します。自転車も出動します。自転車を運転するのは弟です。休憩中にアイスクリームを届けてくれます。田植えは朝から晩まで一日中かかり本当にしんどいですが、家族みんなで頑張っています。

七月、どんどん成長する苗の天敵の一つに雑草があります。父は広大な田んぼの草刈りを懸命にしてくれます。日光を浴び、真っ黒に日焼けし、少しやせた父の姿はとてもたくましく感じます。

九月は稲刈りです。黄金色の田が広がり、たわわに実った稲穂がこうべを垂れます。この景色を見るのも大好きです。家族が頑張った結果が、垂れたこうべに表れているようです。「実るほどこうべを垂れる稲穂かな」この稲穂のような人でありたいと毎年心に刻みます。

昔からお茶碗に一粒でもお米を残すと父に叱られていました。「米一粒を大事にしない者は、米を食べるな。」と言われたこともあります。小さい頃にはその意味が分からず、叱られたことが辛くて泣いていましたが、今は父の言葉の重みを理解することができるようになりました。それからは大変な思いをして育て、愛情込めて作ったお米を大切に食べています。

毎日おいしいご飯を作ってくれるのは母です。私は母のご飯が大好きです。「どんなお米でも美味しく炊けるのよね、私。」と自慢げに話す母は、どんなお米も本当に美味しく炊くのです。古々米も誰も気付きませんでした。品種によって水分量や水に浸す時間を変えたり、もち米を加えたりして炊いているのだそうです。この前初めて母になぜこんなに美味しいのかを聞いてみました。すると母は、にっこりと笑い、「子育てと一緒よ。子育ては楽しいし、子どもたちはみんなかわいいのよ。お米には一粒一粒顔も心もあって、それぞれ味が違う。そして命がある。この一粒から栄養という命を一度だけいただけると思うと粗末にできないし、感謝して食べないといけないと思わない？家族みんなで育てた命、大切にいただいていこうね。」と話してくれました。大切に育てたお米一粒一粒には命があり、それを食べることで、命がつながれていくのだなと感じました。

生きていく中で大切な「食」は家族の愛であり、家族の愛はお米で結ばれている我が家。そんな家に生まれて幸せです。これからも家族みんなで愛情いっぱいのお米を作ったり食べたりしていきたいです。

銅賞作品

おにぎりから伝わる気持ち

八幡浜市立愛宕中学校　三年
米井想真（よねいそうま）

みなさんは「おにぎり」にどんな思い出がありますか。僕は、普段は、おにぎりについて深く考えたことはありませんが、思い返せば、部活動のお昼ご飯、運動会のお弁当、テスト勉強の夜食、野球の試合時の補食など、頑張る時にはいつも母の握ったおにぎりがそばにありました。そして、朝早く起きて、おにぎりを作っている姿や、炊きたての熱々のご飯を握って、手のひらを真っ赤にしている母の姿が思い出されます。

幼稚園の頃は、海苔で目と鼻と口を作った一口サイズの小さなかわいい丸いおにぎりでした。僕の小さな口に合わせて握ってくれて僕が喜んで楽しく食べられるようにと、工夫してくれていたのだと思います。運動会のお弁当では、梅干し、昆布、鮭、シーチキンなど、たくさんの具材が入ったいろいろな種類のおにぎりでした。家族みんなで食べるのでたくさんの種類を作っていたのだと思います。部活動のお弁当では、いつもより大きな三角でたくさんの具材が入ったおにぎりでした。たくさん動いてお腹が空くので、いつもより大きなおにぎりだったのだと思います。野球の試合時の補食では、一口サイズで塩加減少し強めのおにぎりでした。短時間で簡単に食べられる大きさで、塩分補給もできるよう、いつもより塩加減が強かったのだと思います。

おにぎりは、ご飯を手で握る。ただそれだけですが、母はその時その時で、食べる人のことを想って作っていたのだと気づきました。そして、そこには「今日も一日楽しく過ごせますように」「試合頑張れ」「応援しているよ」という気持ちが込められているのだと思います。

少し前の話ですが、妹の野球の大会で、僕が一人留守番をする日がありました。用意してくれていたお昼ご飯を食べ終わり、まだお腹が減っていたので、自分でおにぎりを作ってみようと思いやってみました。意外と上手に握ることができ、海苔をまこうと思ったけれど、昔、母がしてくれたように、海苔で顔を作ってみることにしました。細かな作業で難しかったです。見た目はなかなかの出来でした。でも、食べてみると何か物足りません。塩を振るのを忘れていたのです。作る人の顔や手が違うように、出来上がったおにぎりも一つとして同じものはありません。形も、握る強さも、塩加減も違います。僕は、いろいろな場面で、母の作ったおにぎりに支えられ、励まされていたのだなと改めて実感することができました。

僕にとっては、身近なおにぎりですが、ご飯をおにぎりにして食べる食文化は、世界でも日本だけだそうです。理由の一つに、日本で作られているお米は、粘り気が強く、炊くとふっくらとして握って固めるのに適しているという特徴があるそうです。僕は、日本人に生まれてきてよかったなと思いました。いつでもどこでも気軽に食べられるおにぎり。食べると落ち着くおにぎり。美味しいお米を毎日のように食べられることや、僕のために、おにぎりを作ってくれる母に感謝し、これからもお米の力で僕は心も体も成長していきたいです。

また、食べることは当たり前ではありません。日々「食べられる喜び」を感じながら食事をしていきたいと思います。そして、母がしてくれたように、気持ちの込もったおにぎり、僕しか作れない、おいしいおにぎりを誰かに作ってあげられるようになりたいです。

優秀賞作品

お米の秘密

今治市立桜井中学校　三年
渡邊亜紀

手に水と少しの塩をつけ、炊きたてあつあつのご飯を素早く握る。出来上がったきれいな三角おにぎりを、私は祖母からそうっと受け取った。これは、私が五歳くらいの時のことだ。祖父母の家に遊びに行っていた時、なかなかご飯を食べない私を見て、祖母がおにぎりを作ってくれたのだ。祖母のおにぎりを食べたのはこの時が初めてで、食べた時の驚きとおいしさは今でもしっかりと覚えている。ちょうどいい塩味とふわふわのお米。ただ握っただけのおにぎりなのに、なぜこんなにおいしいのだろう。私はお米のおいしさの秘密は何なのか、不思議に思った。

小学五年生の時、授業でお米づくりについて学んだ。そして実際にバケツを使ってお米を育てたのだ。この時、五歳から不思議に思っていたお米の秘密について少しわかった気がした。まず、農家さんの一年間のスケジュールを学んだ。四月には苗づくり、五月には田んぼの土を掘り起こして、水を張り、六月には田植えをする。九月には収穫をし、十月からは来年のために土づくりを始める。というように、一年を通して作業をしていることがわかった。さらには、その年々の気候や気温を見極めながら作業していることもわかった。これを習った時は、あまり深くは考えていなかった。しかし、次にバケツでお米づくりを学んだ時には、農家さんの苦労や努力を痛感させられることになった。バケツの中に土と水を入れ、稲の苗を二本植えて育てる、というものだったが、なかなか思うようにはいかない。根が腐ってしまったり、雨で茎が折れてしまったり、一人二本の稲を育てていたが、収穫時には三十人いるクラスで、たった十本しかきれいに育っていなかったのだ。その少ししかない お米を収穫し、精米して食べることになった。炊き上がりの色の悪さに嫌な予感はしていたが、その予想は的中、食べてみると、固くて、とてもおいしいとは言えなかった。この経験から、お米のおいしさには、農家さんたちのさまざまな工夫や労力が詰まっていて、お米一粒を作るのにも私の想像を超える程の手間がかかっていることを知った。この時、もみ殻という名のベールが一枚むけて、お米の真の姿が少し見えたような気がしたのを覚えている。

それから四年が経ち、私は中学三年生になった。自分でおにぎりを作ったり、大好きな明太子をお供にご飯を食べたりしている。しかしただ食べるだけではなく、「いただきます」や「ごちそうさま」を心を込めて言えるようになった。それにはある理由がある。五年の時に農家さんたちの作業の大変さを知ったのもあるが、もう一つ私の記憶に色濃く残る出来事がある。

集中豪雨、河川氾濫。毎年聞くこのような言葉は私だけでなく、農家さんたちにも恐ろしく聞こえていたのだと思う。私の住んでいる町に、バケツをひっくり返したような大量の雨が降った時のこと。通学路から見える田んぼは水が溢れ、稲は茎の根もとから倒れていた。他の地域でも甚大な被害を受けていて、テレビのニュースでは、泥まみれの景色が映されていた。その中に、農家さんへのインタビューがあった。その農家さんは涙ながらに今の状況やお米への思いを話していた。私はそれを見て、すごく胸が痛くなった。同時に農家さんのお米を育てるための覚悟や愛情が伝わってきて、圧倒されたのだ。ここに私を変えたもう一つの理由と、お米のおいしさの秘密がある。それは、たくさんの人の「思い」だ。農家さんのしっかり育ってほしいという思い。おいしく食べてほしいという思い。それはおにぎりを作ってくれた祖母も同じだ。お米は私の知らないたくさんの人の思いを乗せて私の口に入る。すると私は、とても幸せな思いになる。だから私は「いただきます」や「ごちそうさま」で感謝の思いを伝えるのだ。

お米のおいしさの秘密。それは農家さんたちの大変な作業と熱い思い、お米を使って料理する人の思い、そして私たち食べる人の思いがつながることなのだと思う。思いを込めて、これからもお米をたくさん食べていきたい。

優秀賞作品

私と家族との絆

今治市立立花中学校　三年
榊原里菜（さかきばらりな）

私は小学校低学年の頃、お米があまり好きではなく食事の時に進んでおかわりすることがなかった。だが今では毎日残さず食べ、時々おかわりもしている。私がそれほどお米を好きになったのは風邪をひいた日の出来事がきっかけだった。

私は小学校高学年になるにつれて体調を崩しやすくなり、風邪で学校を休むことが増えていた。そんな時にいつも作ってくれたのが卵粥だった。最初は食欲も全然なく、全部は食べきれないだろうという気持ちで渋々一口食べてみた。すると、意外にもあっさりしていて食べやすく、私はあっという間に完食していた。その他にも、普段は仕事や三つ上の兄のことで忙しかった母が自分のために作ってくれた卵粥だったので、それだけはいつも残さずきれいに食べた。そのうち、体調を崩していない時も卵粥をねだるようになり、普通のお米も以前よりはよく食べるようになった。だんだんお米や他の野菜などもしっかり食べるようになってからは体調を崩すことは少なくなっていた。よくよく考えてみると私がこんなに体調を崩しやすかったのはこのとんでもない偏食のせいでもあったのかもしれない。

お米をよく食べるようになってから食事の時間がとても楽しいと思うようになってきた。私の家族は父と母、兄と祖母がいて、最近は全員で食事をすることが減ってしまったが、みんなが揃うととてもにぎやかになるのだ。みんなでテレビを見たり、私と兄が近況を話したりして食卓がにぎわう。私と兄は趣味がよく合うので料理をそっちのけで話し込んでしまう時がある。父も話に入ってくると、ますます収拾がつかなくなって大変だ。母と祖母とは学校での出来事を話したり、世間話をしたりすることがほとんどだ。祖母からは、子供の頃の体験をよく聞かせてもらうことがある。例えば昔、祖母が飼っていたうさぎを食べた話など自分が体験したことのない話や知らないことを聞けて新鮮な気持ちになる。そこに父や母も入ってきて話が盛り上がり、とても楽しい時間となっていた。今までは私は偏食が激しく、食べられるものだけを食べてすぐ自分の部屋に戻ってしまい、兄もたくさん食べる方ではなかったので食事で家族と交流することがなくなっていた。だが今では、兄はおかわりをして毎日必ずお茶碗いっぱいに二杯食べるようになり、私も梅干しと一緒に食べたり、卵かけご飯にして食べたりして「食べる」ことも「家族との時間」も大切にしている。

私はお米を通して、「食べる」ことの大切さや喜び、楽しさを実感することができた。次に、しっかり「食べる」ことでゆとりができ、「家族との時間」も増えていった。一日の中で一番嬉しい時を聞かれたら私は間違いなく食事をしている時だと答えるだろう。そのくらい食事の時間は私にとって大切となったし、私をここまで導いたお米は「私と家族との絆」だと思う。これからは「食べる」こととしっかり向き合っていこう。自分たちがこうして普通に食事することができるのは、お米やいろいろな食物を育ててくださる人たちや自分たちの親のおかげである。外国では満足に食事ができない人もたくさんいる。当たり前に毎日三食食べられることに感謝をしていこう。そして、主食でもあるお米をよく食べて元気をつけよう。

優秀賞作品

私とお米の未来

宇和島市立津島中学校　一年
福本（ふくもと）　穂（みのり）

私の家のお米はとてもおいしいです。私の祖父が、毎日水の管理や害虫の駆除をしてくれているからだと思います。私は大人になって家を離れても、今食べているままのおいしいお米を食べたいし、この先もずっと家で作ったお米を食べたいと思っています。

私の家では、祖父と祖母、私の家族四人で四月と八月に行われる、田植えと稲刈りをします。田植えの時期は、新学期で学校が始まる時期なので、手伝いができないことも多いのですが、苗箱に入った苗を取りに行ったり、苗箱を洗ったりします。

私が初めて田植えや稲刈りの手伝いをしたのは、保育園の時です。まだ幼かったのでそれらしいことはできませんでしたが、猫車を運んだり、みんなに飲み物を持って行ったりしていたことを覚えています。泥の中に入って虫を捕まえたり、長靴が泥にはまって抜けなくなったりしたこともありました。今では稲刈りの時にコンバインを動かすこともできるようになりました。まずは祖父と一緒に乗って、それから大人に見てもらいながら乗ります。私が乗れるようになってからは、祖父と父に、

「穂が乗れるようになったから、休めるよ。」

と言われて、役に立てているのだと思い、嬉しかったです。

私の家では、新米をお霊供にして、お供えしてからみんなで食べます。お霊供を作るときに大切にしていることは、ご先祖様に、

「今年もおいしいお米が取れました。無事に終えさせてくれてありがとうございます。」

という思いを込めて作ることです。お霊供は仏様に感謝の気持ち、ご先祖様に供養の心を表しているそうです。私もそのような気持ちでお霊供を作ったりお供えをしたりすることを心掛けています。お供えがすんでみんなで食べる新米のほうがやはりおいしいです。食べるときに毎年わくわくします。私たち家族だけで食べるのではなく、親戚の人たちや、近所の人たちにもおすそ分けします。これもお霊供と同じで、感謝の気持ちを込めて配ります。私が手伝ったお米がおいしいと言われると、とても嬉しいです。私のおすすめの食べ方は、鯛めしと炊き込みご飯です。どちらも甘がらい味がしっかりついていて、米を引き立ててくれます。それだけで食べてもおいしく、冷めてからでも絶品です。

しかし、手伝っていて気付いたことがあります。それは、私たち家族のようにたくさんの人数で作業している家がほんの数軒しかなかったことです。他の家では、一人か二人で作業をしていて、手伝ってくれる人もあまり見かけませんでした。これを見て私は、やはりだんだん田んぼを作る人が減っていることと、米作りも後継者不足になっていると感じました。さらに、後継者不足ということは、その人数に合わせて作らない土地が増えることで、耕作放棄地が増えるということにもつながります。このままだと、私が家から離れた後には、手伝う人が少なくなって私の家もお米を作らなくなるかもしれません。

そこで私は、デジタルネイティブらしく解決策を考えてみました。田舎に住んでいても今はインターネットやＳＮＳが普及しています。お米作りは家族で完結するものだと思っていましたが、より多くの人に米作りに興味を持って体験してもらいたいと今は思います。手伝ってくれる人が増えれば、労働力の確保につながるだけでなく、安全でおいしい米づくりの応援をしてくれる人が増えると思うからです。

私は、将来も自分の家でとれた安全でおいしいお米を食べたいです。

第46回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール

図画部門作品

図画部門 第１部
（小学１～３年生）

金　賞

おにぎりとぼくとじぃじ

俊野　富ノ介（とし の　とみ の すけ）

松山市立たちばな小学校　１年

銀　賞

おにぎり作り

松浦　花（まつ うら　はな）

西予市立宇和町小学校　３年

銅　賞

ピクニックでおにぎり

奥部　奏翔（うお べ　かな と）

松山市立桑原小学校　２年

優秀賞

おいしいおこめになあれ

山田　倫子（やま だ　りん こ）

松山市立石井東小学校　１年

優秀賞

おいしいごはん

松本　澪佳（まつ もと　れい か）

松山市立久枝小学校　３年

優秀賞

おにぎりいただきます

今井　環那（いま い　かん な）

伊予市立伊予小学校　１年

図画部門 第２部
（小学４～６年生）

金　賞

世界のみんながご飯で元気に

辻　野　乃（つじの　の）
大洲市立久米小学校　６年

銀　賞

元気に育ったかがやくお米

福　本　沙　恵（ふくもと　さえ）
東温市立北吉井小学校　４年

銅　賞

ぼくの稲かり体験

清　水　海　里（しみず　かいり）
宇和島市立岩松小学校　６年

優秀賞

はやく大きくなりますように

片　野　ひなた（かたの　ひなた）
西条市立小松小学校　５年

優秀賞

やっぱり、これが大好き!!

田　中　彩　琉（たなか　さりゅう）
西条市立多賀小学校　４年

優秀賞

ごはんおかわりもう一杯

武　智　和　心（たけち　わこ）
伊予市立伊予小学校　４年

優秀賞

おいしいお米がとれたぞ!!

伊　藤　海　璃（いとう　かいり）
伊予市立伊予小学校　５年

金賞・県知事賞

黄金色に輝く稲穂

西野 可七実（にしの かなみ）

宇和島市立三間中学校　３年

銀　賞

努力の賜物

田中 洸成（たなか こうせい）

西条市立河北中学校　１年

銅　賞

温かい心をいただく

藤村 梨世（ふじむら りせ）

松山市立鴨川中学校　２年

優秀賞

いつの時代も

阪下 綺咲（さかした きさ）

四国中央市立土居中学校　３年

優秀賞

収穫

清水 心々咲（しみず ここさ）

大洲市立大洲北中学校　１年